

令和元年8月5日  
行財政改革推進委員会

参考資料 1

**西東京市公共施設等総合管理計画**  
**～公共施設等マネジメント基本計画～**

**平成28年9月**  
**西東京市**

## 7. 小学校・中学校

### 【施設の基本的な管理方針】

- 少子化の進展により、児童・生徒数の減少が見込まれることから、児童・生徒数推計に基づく学校施設の適正規模・適正配置を検討していきます。また、児童・生徒数の減少に伴い生じた余裕教室等について、他の施設との複合化を検討します。
- 校舎等の老朽化対応については、中長期的な計画に基づいて取組を進めます。

### 1. 現状と課題

#### (1) 施設の概要と配置状況

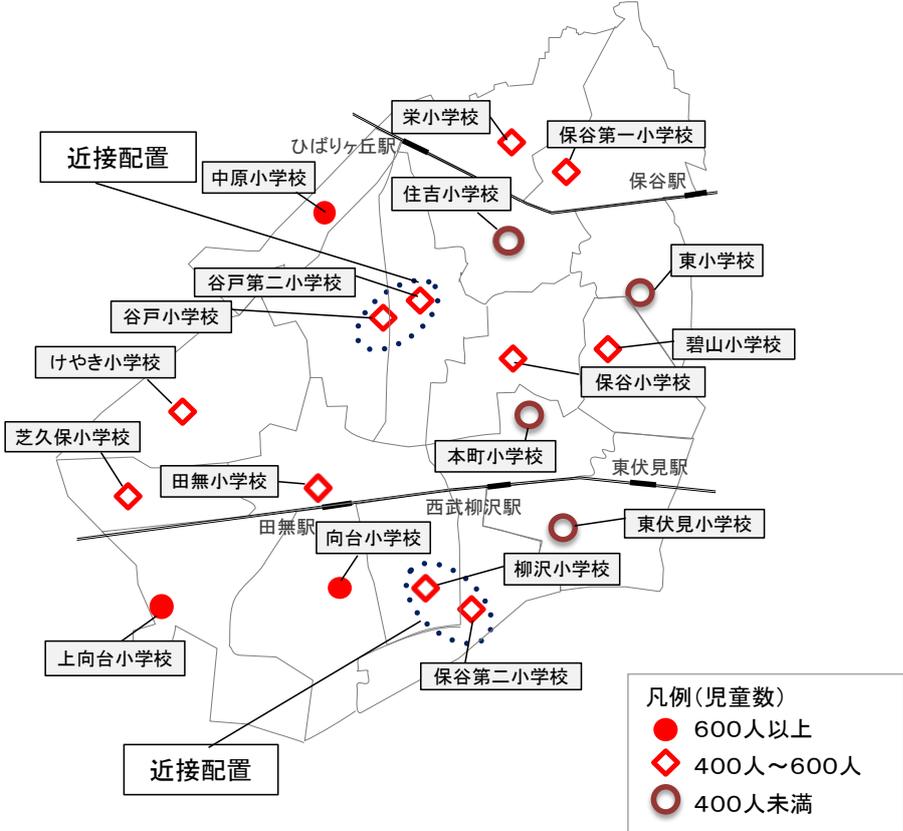
- 本市には現在、小学校が18校、中学校が9校あり、近隣市の平均よりは多いものの、都内同規模類似団体の平均とほぼ同水準にあります。
- 合併当時、小学校は20校ありましたが、平成15(2003)年度に西原小学校と西原第二小学校を統合したけやき小学校の開校や、平成26(2014)年度末の泉小学校と住吉小学校の統合により、小規模小学校の集中地域の解消を図ってきました。なお、中学校は合併以降、増減はありません。

		小学校				中学校			
		校数	面積 1km <sup>2</sup> あたり	児童数	小学校 1校 あたり	校数	面積 1km <sup>2</sup> あたり	生徒数	中学校 1校 あたり
西東京市	H27	18	1.1	9,328	518	9	0.6	4,043	449
近隣市の平均	H27	13.1	0.9	6,357	482	6.7	0.5	2,859	423
都内同規模 類似団体の 平均	H27	18.3	0.8	9,468	517	8.4	0.4	4,156	492

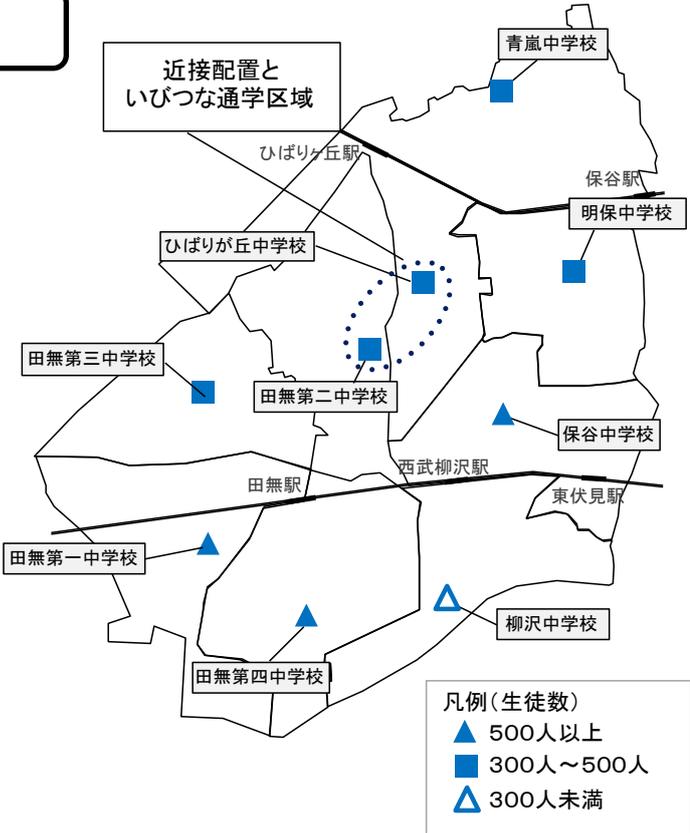
※出典:「平成27年度学校基本調査報告」

- 本市の公共施設の建物面積の約6割を占める小中学校施設のうち、建築後30年以上を経過している建物が約8割を占めています。
- 小学校の配置状況を見ると、谷戸小学校と谷戸第二小学校、柳沢小学校と保谷第二小学校がそれぞれ近接している状況です。
- 中学校の配置状況を見ると、田無第二中学校と近接のひばりが丘中学校については、老朽化に伴い(仮称)第10中学校として移転建替することにより近接の課題は解消されますが、通学区域がいびつな形状となっています。

# 小学校配置図



# 中学校配置図



## (2) 施設の劣化状況

○小・中学校の校舎と体育館については、耐震補強工事及び非構造部材耐震化工事が完了しています。しかしながら、校舎については、小学校では、18校中16校、中学校では、9校中8校が建築後30年以上経過しており、全体として老朽化が進んでいる状況にあります。

○現在は、住吉小学校校舎の大規模改造工事を実施しており、また、中原小学校の建替と（仮称）第10中学校の整備に向けた取組を進めています。

### 【小学校の劣化状況】

施設名称	延床面積 (㎡)	構造 種類	建築年	経過 年数	劣化状況 (平成25年度調査)	具体的な劣化内容
田無小学校校舎	5,659	RC	1978	38	D	建築外部の劣化が進行
田無小学校体育館	930	RC	1970	46	A	—
保谷小学校校舎	5,861	RC	1978	38	B	—
保谷小学校体育館	814	S	1972	44	A	—
保谷第一小学校校舎	5,448	RC	1967	49	D	建築外部の劣化が進行
保谷第一小学校体育館	628	S	1966	50	A	—
保谷第二小学校校舎	5,276	RC	1975	41	D	給排水設備の劣化が進行
保谷第二小学校体育館	800	S	1976	40	A	—
谷戸小学校校舎	4,833	RC	1970	46	D	建築外部の劣化が進行
谷戸小学校体育館	909	RC	1973	43	A	—
東伏見小学校校舎	6,284	RC	1981	35	B(※)	—
東伏見小学校体育館	798	S	1970	46	B	—
中原小学校校舎	5,428	RC	1959	57	E	建築外部、建築内部、外構、電気設備の劣化が進行
中原小学校体育館	727	S	1974	42	B	—
向台小学校校舎	4,933	RC	1980	36	B	—
向台小学校体育館	817	RC	1973	43	A	—
碧山小学校校舎	6,060	RC	1994	22	B	—
碧山小学校体育館	685	S	1967	49	B	—
芝久保小学校校舎	5,477	RC	1969	47	B(※)	—
芝久保小学校体育館	822	RC	1972	44	A	—
栄小学校校舎	4,532	RC	1970	46	D	給排水設備の劣化が進行
栄小学校体育館	803	S	1974	42	A	—
谷戸第二小学校校舎	4,727	RC	1972	44	D	建築外部の劣化が進行
谷戸第二小学校体育館	786	RC	1972	44	B	—
東小学校校舎	4,210	RC	1974	42	D	建築外部の劣化が進行
東小学校体育館	757	S	1975	41	A	—
柳沢小学校校舎	5,142	RC	1975	41	B	—
柳沢小学校体育館	768	RC	1976	40	A(※)	—
上向台小学校校舎	6,803	RC	1978	38	D	建築外部の劣化が進行
上向台小学校体育館	931	RC	1979	37	B	—
本町小学校校舎	4,806	RC	1979	37	D	建築外部の劣化が進行
本町小学校体育館	804	S	1979	37	B	—
住吉小学校校舎	5,753	RC	1978	38	A(※)	—
住吉小学校体育館	840	RC	1979	37	A(※)	—
けやき小学校校舎	12,690	RC	2003	13	A	—
けやき小学校体育館	1,112	RC	2003	13	A	—

※東伏見小学校校舎は、平成26(2014)・27(2015)年度に屋上等防水改修工事を行い、劣化状況は「D」から「B」となっています。

※芝久保小学校校舎は、平成26(2014)年度に外壁補修工事を、平成27(2015)年度に屋上等防水改修を行い、劣化状況は「D」から「B」となっています。

※柳沢小学校体育館は、平成27(2015)年度に大規模改造工事を行い、劣化状況は「E」から「A」となっています。

※住吉小学校校舎は、平成27(2015)・28(2016)年度に大規模改造工事を行い、劣化状況は「E」から「A」となっています。

※住吉小学校体育館は、平成 27（2015）年度に大規模改造工事を行い、劣化状況は「B」から「A」となっています。

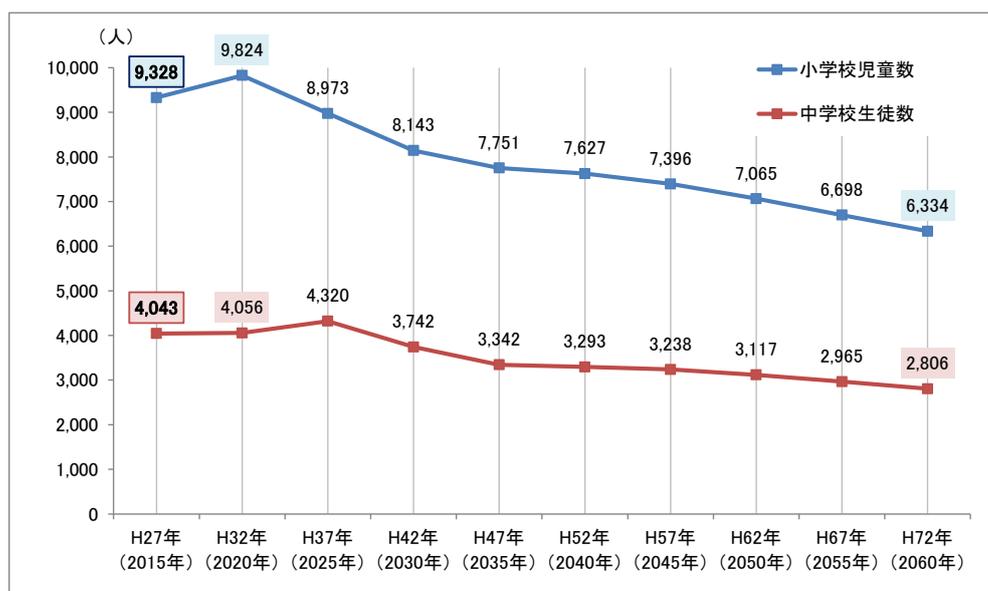
### 【中学校の劣化状況】

施設名称	延床面積 (㎡)	構造種類	建築年	経過年数	劣化状況 (平成25年度実施)	具体的な劣化内容
田無第一中学校校舎	6,088	RC	1973	43	D	建築外部の劣化が進行
田無第一中学校体育館	1,213	RC	1974	42	A	—
保谷中学校校舎	5,522	RC	1968	48	D	給排水設備の劣化が進行
保谷中学校体育館	1,956	RC	2008	8	A	—
田無第二中学校校舎	5,867	RC	1975	41	D	建築外部の劣化が進行
田無第二中学校体育館	905	RC	1966	50	B	—
ひばりが丘中学校校舎	5,984	RC	1960	56	E	建築内部、外構、電気設備、給排水設備、空調設備の劣化が進行
ひばりが丘中学校体育館	1,175	S	1971	45	B	—
田無第三中学校校舎	4,732	RC	1961	55	E	建築外部、建築内部、外構、電気設備、給排水設備の劣化が進行
田無第三中学校体育館	971	RC	1968	48	B	—
青嵐中学校校舎	10,966	RC	2007	9	A	—
青嵐中学校体育館	2,324	RC	2007	9	A	—
柳沢中学校校舎	5,195	RC	1972	44	D	建築外部の劣化が進行
柳沢中学校体育館	1,189	S	1975	41	A	—
田無第四中学校校舎	5,574	RC	1977	39	D	建築外部の劣化が進行
田無第四中学校体育館	1,363	RC	1978	38	B	—
明保中学校校舎	5,441	RC	1983	33	D	建築外部の劣化が進行
明保中学校体育館	2,318	RC	1983	33	A	—

### （3）児童・生徒数の現状と今後の展望

○「西東京市人口ビジョン」によれば、児童数は平成 32（2020）年、生徒数は平成 37（2025）まで増加する見込みですが、このまま少子化が進むと、平成 72（2060）年には児童数は平成 27（2015）年時点の 67.3%、生徒数は平成 27（2015）年時点の 69.4%程度に減少すると見込まれており、教育環境も変化していくことが想定されます。

#### 小学校児童数及び中学校生徒数の将来推計（「西東京市人口ビジョン」より）

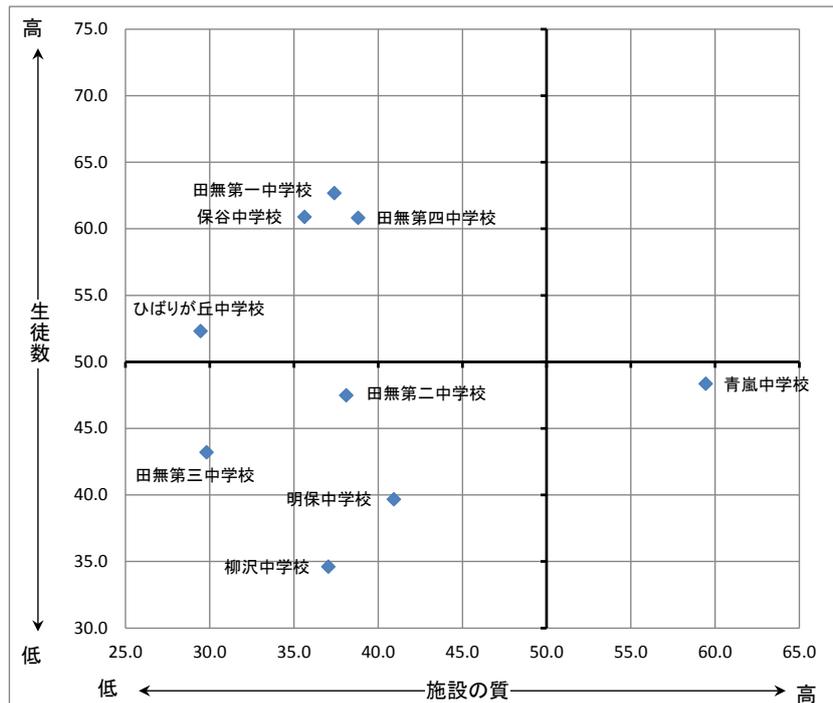
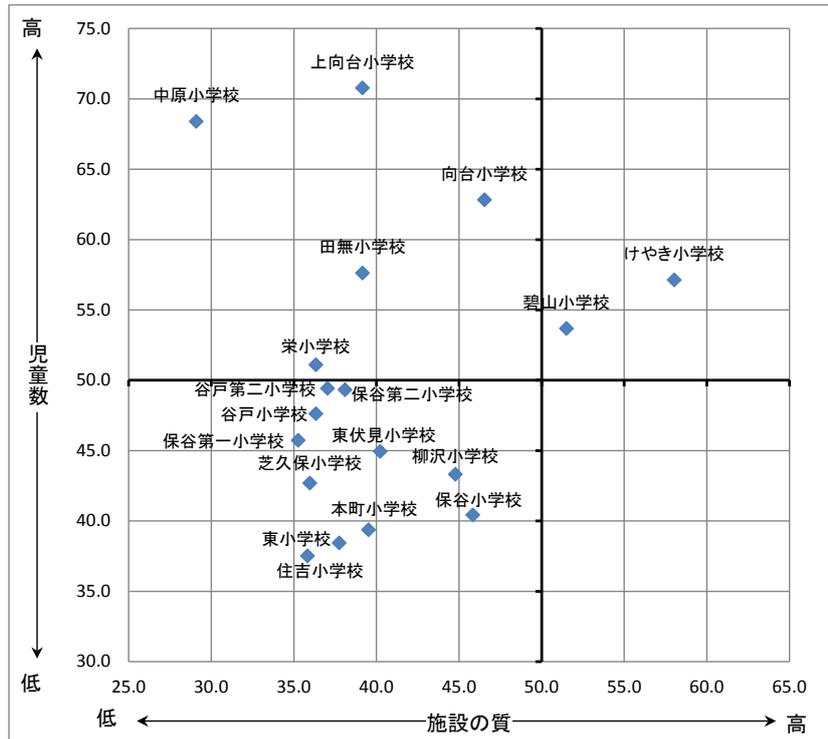


#### (4) ポートフォリオ図から見える課題の考察

○児童数で見ると、上向台小学校と中原小学校が高位にあるのに対し、住吉小学校、東小学校、本町小学校が低位にあります。施設の質では、中原小学校が最も低位にあり、今後は老朽化対応が望まれます。

○生徒数で見ると、田無第一中学校が高位にあるのに対し、柳沢中学校が低位にあります。施設の質では、ひばりが丘中学校と田無第三中学校が低位にあり、今後は老朽化対応が望まれます。

○児童数・生徒数の少ない学校については、今後の児童・生徒数の推計を踏まえ、施設の有効活用や統廃合も視野に入れた検討を行います。



## 2. 見直しの方向性

### ① 児童・生徒数推計を踏まえた学校施設の適正規模・適正配置の検討 <基本方針1・2> **中長期目標**

児童数の現状を見ると、谷戸小学校と谷戸第二小学校、柳沢小学校と保谷第二小学校は、地理的に近接している状況はあるものの、短期的に統廃合できる状況にはありません。今後は、「西東京市人口ビジョン」等に基づく児童数推計を実施し、近接配置の解消を含めた学校施設の適正規模・適正配置を検討していきます。

### ② 学校施設の有効活用の検討 **中長期目標**

教育基本法に基づく教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）では、多様な学習活動に対応した機能的な学校施設の整備を推進することや、学校施設の複合化及び余裕教室の活用を促進することとされました。

児童・生徒数推計により、将来的に余裕教室等の発生が見込まれる学校については、児童・生徒の教育拠点としての役割を前提とし、生涯学習や地域コミュニティ等の拠点として、地域の実情や需要動向を勘案し、周辺施設との複合化を検討していくこととします。

また、教室の整備にあたっては、他の施設への転用の容易な方式の導入を検討します。

### ③ 中長期的な建替え・大規模改造等の実施 <基本方針3> **短期目標** **中長期目標**

小・中学校のうち、15校が昭和30～40年代（1959～1974年）に建設されており、今後は校舎と体育館が更新時期を迎えることとなります。このため、小中学校校舎・体育館の老朽化対応としては、「西東京市立学校施設建替・長寿命化及び大規模改造等事業計画」に基づき、中長期的な計画に基づいて取組を進めます。

また、学校施設の建替にあたっては、周辺施設との複合化を積極的に検討します。

## 3. 今後の取組スケジュール

短期（～平成30年度）	中長期（～平成45年度）
◇計画的な建替え・長寿命化・大規模改造等の実施	◇学校施設の適正規模・適正配置の検討（近接校の解消の検討を含む） ◇学校施設の有効活用の検討 ◇計画的な建替え・長寿命化・大規模改造等の実施